

早期胃癌の深達度診断における EUS の位置付けの検討

1. 研究の対象

2010年1月から2018年5月に当院で早期胃癌に対して超音波内視鏡検査を受けられた方

2. 研究目的・方法

1) 目的

早期胃癌において組織学的粘膜下層深部(pSM2)浸潤はリンパ節転移の危険性と密接に関連し、同所見を認めた場合にはリンパ節郭清を伴う外科手術が必要である。早期胃癌の深達度診断は一般的に通常観察で診断されるが、近年超音波内視鏡(EUS)を行うと通常観察で粘膜下層癌と深読みした例の中からpM/SM1癌を正診し、過剰手術を減らすことができるという報告がされている。今回、当院で経験した通常観察で粘膜下層癌と診断された早期胃癌例に対してEUSを行う臨床的意義を検討する事を目的とする。

2) 方法

当院で早期胃癌に対して深達度診断の目的で行った EUS 画像を後ろ向きに検証し、診断精度・臨床的意義を検討する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報: 病歴、カルテ番号、病理検体番号

試料: 内視鏡写真、病理所見、

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

大阪国際がんセンター 消化管内科 松浦 倫子

住所: 〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話: 06-6945-1181

研究責任者: 大阪国際がんセンター 消化管内科 石原 立

住所:〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話:06-6945-1181

以上